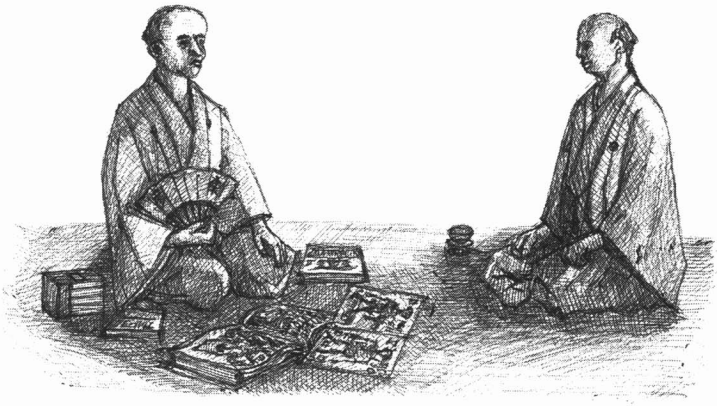
た。

やがて、黄色い花をつけた大きい木が見えてきました。そこが玄真先生の家です。田善は、ていねいに案内されました。玄真は、ひたいのでた頭の大きな人物でした。

口のおもい田善でしたが、「とのさまから、宇田川先生のことを聞いております。」と、ひとことあいさつをしました。

玄真は、用意していた五、六冊の本を引き寄せていいました。どれもりっぱな本ばかりです。

「わたしの書いた医範提綱は、ごぞんじでしょう。ここにいる弟子も、この本をまとめる